

抄 録

結核専門雑誌

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 81 Heft 1-2.

肺結核ノ自然治癒ニ就テ

Walter Seuss: Über Spontanheilungen in der Lungentuberkulose.

肺結核ノ治療トハ臨牀上ニモX線像デモ、又精神的ニモ病覺ガ消退シ、患者自身が健康感ヲ有スル様ニナツタ状態ヲ言フノデアツテ、5年以上ノ觀察ヲマツテ初メテ斷言シ得ル。著者ハ慢性粟粒結核肺ノ治癒2例、浸潤又ハ空洞性肺結核ノ Rückbildung 4例ヲ掲ケ。ソノ第1例ハ妊娠ニヨツテ急性ニ粟粒結核ガ起リ、人工流産後著明ニ病竈ノ消退ヲ見タモノテ4ヶ月後ニハ病覺モナクX線像テハ輕度ノ肺紋理増強ヲ見ルノミ。其後5ケ年ノ經過ニ於テモ完全ニ病的所見ヲ認メナイ。

第2例ハ慢性ニ初マリ慢性ニ經過シ6ヶ月後ニ病症輕快シタ粟粒結核例テ6ケ年後ノ胸部所見デモ完ク健康デアル。著者ハ Hain ノ粟粒結核治癒例綜覽ノ表ヲ掲ケ、之レニヨレバ粟粒結核ノ治癒ハ半ケ年以上數年ヲ要スルモノテ治癒ハ11/109。X線像及臨牀上遺殘物ガアツテ治癒シタ場合モ多ク(41/109)、又他臟器ノ結核主トシテ結核性腦膜炎ヲ續發シテ死亡スル例(57/109)モ多イ。滲出性肺結核治癒ノ2例。之ハ嗜痰ノ結核菌陽性テ確ニ滲出性結核病竈ヲ認メタモノガ

痕跡モナク消退シタモノデアル。次ニ空洞性結核ノ治癒2例。第1例ハ一時ハ空洞モ増大シ病症増惡シタガ患者ガ勞銀ヲ得ル仕事ヲ見出シテ生計ノ道ガ立ツテカラ病狀ハ一時ニ好轉シ空洞消退、結核菌陰性、自覺症狀ノ減退ヲ見タ。然ルニ再ビ經濟的悲境ニ立ツヤ、病狀急ニ増惡死亡スルニ至ツタ。之レニヨツテ結核患者ニ如何ニ經濟的安定、從ツテ榮養及ビ精神的安慰ノ必要ナルカガワカル。即勞働能力ニ應ジタ仕事ヲ與フル事ハ必要デアル。他ノ1例ハ氣胸不能テ特殊ノ治療ヲセズニ居テ8ヶ月間不變ナリシ空洞ガ2ヶ月半内ニ自然消退シタモノナリ。如斯空洞ノ自然消退ハ萎縮ダケテハナク色々ノ因子ヲ考フベシ、即

1. 空洞周圍ノ癥痕形成ニヨル萎縮。
2. 空洞ノ全子午線ニアル空洞壁ノ萎縮作用ニ依ル各方面ヨリノ徐々ノ縮小。
3. 空洞壁ノ細胞増殖。
4. 扁平空洞ハ壁ガ互ニ接近シ癒著ス。
5. 空洞内ノ壓力ノ變化ニヨル虛脱、空洞ト氣管枝ノ連絡ガ絶タレ無氣ノ状態ニナリ虛脱ス、之レハ比較的短時日ノ内ニ起リ得ル。

(刀根山 山中抄)

肺結核ノ金療法

Erich Mann: Goldbehandlung der Lungentuberkulose
金療法ノ文獻ヲ述ベ油製「ソルガナール」B治療ヲ行ヒ

例數	期 別			病 型			有熱者	内セ解ル熱者	結陽核性菌者	内セル消滅ノ	體平重增加均的	比治較的癒	輕快	不 變	增 惡	死 亡
	I	II	III	増殖	滲出	散布										
全治療例	100	2	34	64	61	16	23	45 (79%)	77	31 (40.3%)	5.2	25	63	6	4	2
對 照	1168	10.2%	48.9%	40.9%	69.7%	30.3%	/	385 (66.3%)	641	199 (31%)	/	27%	58%	4%	6.3%	4.7%

總量3瓦以上ヲ用ヒ得タル100例ニツキテ成績ヲ表示シ1168例ノ對照ト比較シ其ノ有效ナル主張ス金治療劑トシテ著者ハ緩徐ニ吸收セラル、油製「ソルガナール」Bヲ推奨ス、金療法ニ注意スベキハ腎、肝、腸皮膚及ビ粘膜ノ刺戟ナリ、量ハ0.005ヨリ漸次増量

シ0.1—0.2—0.5ニ至ル、過敏ナル患者ニハ始メ「カルシウム」ノ大量ヲ與フルヲ可トス、肝ノ機能障礙ノ徵アルモノニハ大量ノ葡萄糖ヲ用フ、適應症トシテハ一定ノ一致セル意見ナシ、要ハ患者ガ反應能力ヲ有スルコトナク、古キ滲出型、廣範圍ノ硬化性病型等ニ對

シテハ不適當ナリ、新鮮ナル滲出病機ニ對シテハ有效ナリト認メラル、其他皮膚、骨、關節眼結核ニモ有效ナリ。

(刀根山 杉田抄)

結核性胸骨變化ノ「レントゲン」診断補遺

B. Rüdtenholz; Beitrag zur Röntgen diagnostik tuberculöser Brustbeinveränderungen.

種々ノ骨路部ノ「レ」線の診断ニ際シ夫レ軟部或ハ他ノ骨ニヨツテ蔽ハレル爲ニ、シバシバ大ナル困難ヲ感ズルコトガアルガ、此困難ハ胸骨特ニ胸骨體部ノ診断ニ際シテモ遭遇スル。此處ニ於テ Tomographie ハ一進歩ヲ劃スルモノテアルガ、所謂塗りツップシタル陰影テアル爲ニ、假令有利ナル方向ヨリ撮影サレタスルモ、尙像ノ鮮明度ニ不都合ガ現レトイフ不利ガアリ、骨變化ニヨルモノカ或ハ塗りツップシニヨルモノカノ判断ニ困難ヲ來ス、此ノ缺點ハ多ク「フィルム」ヲ用ヒ各「フィルム」ニ於テ色々ノ方向ヨリ「トモグラフィ」ニ撮リ、是等ヲ重ね合シテ作ツタ陰影ニヨリ除カレル。其方法ノクワシキ報告ハ Röntgenpras 1938 H. 1. 26 ニ在リ、著者ハ此ノ方法ニヨリテ撮影セル3例ノ胸骨結核ノ寫眞ヲ掲ゲ大ニ此方法ヲ推奨セリ。

(刀根山 杉田抄)

實驗的家兎結核ノ尿中菌排泄ニ就テ

Yukio Tsuge: Beobachtung über Bazillenauscheidung durch die Niere bei der experimentellen Kaninchen-

ntuberkulose

家兎靜脈ニ結核菌ヲ注入シ(人型 0.02 mg、又ハ牛型 0.01 mg) 3分後ヨリ 136分間或ハ 6日ヨリ 33日ノ間ニ於ケル尿中結核菌排泄ノ狀ヲ檢セリ、結核菌ハ組織検査上健全ナル、且蛋白尿ヲ出サザル腎ヲ通シテ間歇的ニ尿中ニ出現スルコトヲ證明セリ。

(刀根山 杉田抄)

1938年6月 Zoppot ニ於ケル獨逸結核會議

Dr. Fr. Ickert 概抄 Die Deutsche Tuberkulose-Tagung in Zoppot, Juni 1938.

結核ノ結婚能力及ビ結婚適格ニ對スル意義 Redeker 細菌學的検査ニヨル結核感染力ノ證明 Wagner Leuchtbildverfahren nach Hoffmann 及ビ fluoreszenzverfahren nach Hegmann ヲ推奨ス。

結核保護所醫師ノ立場ヨリ見タル療養所療法ノ結果、Konradsiat.

結核療養所醫ノ立場ヨリ見タル保護所ノ成績 Gudehus 肺結核ノ外科的療法ニ於ケル缺點及ビ進歩ノ可能、Graf

療養所療法ノ現在ノ問題 Ulrici

開放性結核患者ノ作業問題 Gabe

同

Brechmann

ノ講演アリ。

(刀根山 杉田抄)

Zeitschrift für Tbc. Bd. 81 Heft 3. 1938.

§ 海狸ノ結核免疫ノ證明及ビ其影響

H. Selter und A. Nagel: Nachweis und Auswirkung der Tuberkulose-immunität bei Meerschweinchen.

結核ノ免疫ニ就テノ實驗的研究ハ、非常ニ深山アルガ今迄明確ナ單一ノ概念ヲ得ルニ至ツテ居ラス。著者等ハ海狸ヲ用ヒテ比較的長時日間(8ヶ月迄)、色々ノ量ノ初感染ヲ試ミ、此際發生セル免疫ガ進行セル結核テハ潜在性ノモノヨリヨリ強力ナリヤ、否ヤヲ知ラントシテ研究ヲ企テタ。Lange 及 Lytdin ハ進行セル結核テハヨリ強力ナ免疫ヲ證明スルト云フガ、著者等ハ之ニ疑問アリト爲シ、結核免疫ノ存在ハ健康動物テハ急激ニ死ニ到ル如キ毒力強キ結核菌ノ一定量ノ重感染ヲ防グ事ニヨリテ證明セラルト述べ、カ、ル免疫ノ證明ハ初感染ト重感染ノ影響ヲ明ラカニ區別シタ時ニ初メテ單一ニ追求シ得ルト云ヒ、其際初感染テハ弱毒ノ菌ヲ用ヒ、其感染ノ影響ハ可及的注射局所及所

屬淋巴腺ニ局限セル場合ニ可能ナルト述ブ。

免疫ノ發生ハーツノ生物學的ノ現象テアルカラ個々ノ場合豫メ確實ニ測定シ得ナイカラ同一動物テモ同一條件ノ下ニ於テモ著明ノ動搖ヲ起ス。又結核ニ罹患シ易キ動物テアル海狸ノ中ニ於テモ往々死ノ轉歸ヲトル様ナ感染ニ對シ、完全ニ抵抗ヲ示スモノガ有ルカト思フト他方他ノモノヨリモ強イ感染ヲ起シ、免疫ノ證明ノ不可能トサヘ見ユルモノモ有ル。從ツテ海狸ニ於ケル結核免疫ノ存在及其影響ニ就テノ決定的ノ結論ハ多數ノ動物カラノミ引キ出シ得ルモノテ少數テハ誤ヲ來ス。是等ノ點ヲ考慮シテ實驗ヲ企テ實驗方法及成績ヲ詳論シタ後次ノ如キ總括ヲ爲シテ居ル。

1) 海狸ヲ用ヒテ弱毒結核菌テ前處置シタ後有效ナル免疫ヲ起サシメル事ガ出來タ。此様ナ菌ノ感染作用ハ初感染ニ於テ所屬淋巴腺迄ヲ留マル様ニシタモノテアル。

- 2) 免疫ハ數週後ニ完成シ菌ノ重感染ヲ防グニ足ルカガアル。
- 3) 此防禦力ハ重感染セル菌ヲ直接死滅スル事ニヨリテ起ルノテハ無イ。
- 4) 重感染シタ菌ハ注射局所カラ一部分ハ内臓ニ到リ、其處ニ増殖スル事ナシニ永ク生存スル。内臓ニハ顯微鏡的ニ認メラル、結核病變ヲ起スカ間モ無ク、菌ハ死滅シ結核病變モ全治スル。
- 5) 前處置ニ用ヒタ感染ガ餘リ強イト病變ハ、更ニ進展シテ Generalisation ヲ起シ重感染セル菌ハ増殖シ進行セル臟器結核ガ發生スル。
- 6) 證明セラル可キ有效ナル免疫ハ從ツテ唯 ruhend ノ結核ニノミ期待シ得ル。(刀根山 西村抄)

§ 結核總死亡率ニ於ケル肺外結核ノ死亡例ノ關係

R. Engelsmann: Der Anteil der Todesfälle an Tuberkulose anderer Organe an der Gesamtsterblichkeit an Tuberkulose.

著者ハ結核死亡率ナル概念ハ之ヲ明確ニスル必要ガアルト述べ、獨逸結核協會ノ 1936—1937 年ニ於ケル統計テハ肺結核ノ中ニ急性全身粟粒結核ヲ含ミ、又結核ノ凡テノ型ヲモ包含シテ居ルガ、アル地方ニ於ケル結核死亡率ヲ云々スル場合ニハ之カ凡テノ結核ノ死亡率デアアルカ、又ハ單ニ肺結核ノミノソレデアアルカラ明白ニスル必要アリ、同一地域デモ結核ノ總死亡率ト肺以外ノ器官ノ結核ノソレトハ異ツタ關係ヲ示スカラデアアルト述べ。

獨逸ニ於ケル總死亡數ハ都鄙ヲ通ジ 1914 年ヨリ 1934 年ニ渡ル 20 年間ニ約半分ニ低下シタ。肺外結核ニ因ル死亡モ 20 年間ニ著シク低下シタ。各州テハ結核ノ總死亡率及ビ肺外結核ノ死亡率ノ減少ノ度ハ様々デアアル著者ハ Preußen, Bayern, Sachsen, Württemberg, Baden, Hessen 等ノ國々ニ於ケル 1919 年及ビ 1934 年ニ於ケル結核ノ凡テノ型、肺結核及ビ肺外結核ノ死亡率ノ統計ヲ示シ、地方ニヨツテ死亡率ニ差異アルコトヲ證明ス。又一般ニ結核死亡率ハ獨逸ノ北部ニ高ク南部ニ低イト述べ統計ヲ示シテ居ル。

著者ハ肺外結核ノ死亡率ノ肺結核ノソレニ對スル關係ヲ可及的合理的ニ追求セントシ Münster ト云フ町ノ死亡例ヲ統計局ニ就テ調査シタ、此町ハ帶狀ニ山地テ取り卷カレ大都市ノ影響ヲ蒙ルコトノ少イ所テカ、ル研究ニ尤モ適シテ居ル。1931 年カラ 1936 年迄ノ統計テハ結核總死亡例ハ多少ノ増減ハアルガ、漸次

減少ヲ示シテ居ル。又肺結核ノミノ死亡モ減少ノ傾向ヲ辿ル。然ルニ粟粒結核、及ビ其他ノ結核ノ死亡ハ低下ノ傾向ニ認メラレズ兩者ヲ合スルト、寧ロ増加ノ傾向ガ認メラレタ。而シテ 6 年間ヲ通ジテ結核ノ總死亡例ハ 564 例テ粟粒結核及ビ其他ノ肺外結核ハ合計 132 例デアツテ結核總死亡數ノ 23.4%ニ常ル、著者ハ更ニ肺外結核ノ死亡例ノ分類ヲ試ミ、1) 下腹部結核、2) 腹膜結核、3) 狼瘡、4) 結核性肋膜炎、5) 腎臟結核、6) 腺結核、7) 粟粒結核、8) 結核性腦膜炎、9) 腸結核、10) 骨結核等ヲ擧ゲ各項ニ渡リ統計上ノ特異ナル點ヲ詳述シテ居ル。ソシテ最後ニ次ノ如ク總括スル、

- 1) 結核ノ死亡率ハ常ニ肺結核ノソレト肺以外ノ器官ノ結核ノソレニ分ケテ考フ可キデアアル。此際粟粒結核ヲ肺結核ノ中ニ算入スルコトハ推賞出來ナイ。肺外結核群ハ決シテ單一ノモノテハ無イ。而モ如何ナル場合ヲ一次結核トシ、又二次結核トスルカハ統計學上重大ナ問題デアアル。診斷ノ不正確ニヨツテ肺外結核ノ%ニ大ナル誤差ヲ來ス。

- 2) 全身粟粒結核ト結核性腦膜炎トハ、常ニ區別スベキデアアル。全身粟粒結核ハ著者ノ統計テハ 10 歳以下ハ 5 例、10 歳以上 56 歳迄ノ間ニ 6 例アツタ。之テ見ルト粟粒撒布ハ結核ノ凡テノ時期ニ起リ得ルコトガ分ル。結核性腦膜炎ハ其數ガ最モ多ク且其年齡トノ關係ガ興味アリ。狼瘡ガ死因トナルコトアルハ注目スベキデアアルガ極メテ稀ナリ、肋膜炎ガ一次的ノ死因ト爲ルハ非常ニ稀ナリ。腎臟結核ハ上行性ニ成立スルモノテ之ハ肺結核トノ合併ヲ要セズ。腺結核ノ死因トナルハ非常ニ稀ナリ。腸結核ハ著者ノ考テハ大抵ハ二次結核デアアル事ハ死因ヲ考ヘル上ニ考慮スベキデアアル。特ニ注目ス可キハ骨結核テ之ハ特ニ女性ノ背椎骨ニ最モ多ク、大部分ハ既婚婦人デアアリ其際合併症ノ頻發スルコトモ注目ニ値スル。

- 3) 家族ノ罹患ハ 6 年間ニ於テ死亡例ノ 8%ニ於テ認メラレタ。家族ノ凡テカ感染ニ曝露サレテ居ルノ一其中ノ一人ノミガ死亡スル事實ハ結核ト云フモノガ、一般ニ考ヘラレテ居ルヨリ遙カニ良性ノモノデアアリ、死亡セル者ハ何等カノ體質ノ低下ガアツテ、不幸ノ轉歸ヲトリシモノト考ヘラル。

- 4) 統計ト云フモノハ、常ニ單ナル指示ヲ與フルニ過ギヌモノデアアルカラ統計ハソレ自身ガ目的テハナイ。又統計ハ實際的ノ仕事ニ必要ナル基礎ヲ提供スル様

ニ作ル必要ガアル。此意味ニ於テ著者ノ此統計ハ資
ル所アルヲ信ズル。(刀根山 西村抄)

減弱抗酸性結核菌ト毒力

Marie Maxin: (Über Tuberkelbazillen von abgeschwächter Säurefestigkeit und Virulenz)

Lockmann 氏培養基ノ「グリセリン」ヲ除ケルモノニ豚ノ脾臓「グリセリン」抽出液ヲ色々ノ濃度ニ加ヘ、之ニ有毒結核菌ヲ培養シテ見タノニ、初メハ稍遅ク屢結核菌ハ沈澱スルガ後ニハ早ク、3、4 週間テ「コルベン」ノ表面全體ニ擴ル程度ニ發育ス、菌苔ハ脾臓抽出液ノ多イモノ程薄ク、培養液ハ強ク黄色ニ染マリ、菌ハ強ク點狀ニ近クナル桿菌テ Ziehlニ染リ難ク、寧ろ紫色ヲ帶ブ。之ヲ何邊モ培養ヲ繰リ返スト多形ナ強ク點狀ノ形トナリ、多クノ顆粒ヲ含ミ、色素ハ増加ス。本菌ハ種々ノ有機、無機酸、「アルコール」ニ對シテ過敏即チ抗酸性、抗「アルコール」性ガ減弱シテアル。

化學的ニハ脂肪量ハ減少シ、水溶性部分(多クハ含水炭素)多ク、蛋白モ亦容易ニ消化性トナル(「トリプシン」消化)。色素ハ乾燥菌カラ容易ニ「アルコール」、「エーテル」、「ベンツォール」、「ベトロールエーテル」ニ移行シ、極メテ弱キ酸化能ヲ有シ、酸、鹼基性色素ニ對シ弱キ親和力ヲ有ス。

之ヲ海狸ニ移植スルト毒力極メテ弱ク、其ノ病原性ハカノ BCG ノ夫レト同様又ハ其以下テアル。

更ニ本菌ヲ海狸ニ移植シテ、有毒性結核菌ノ重感染ヲ行フトキハ對照ト比シテ、極メテ顯著ナル免疫ガ證明セラル。然レドモ絶對免疫ヲ得ラルモノニ非ズ、對照 BCG ト同程度ノ成績ナリ。而シテ脾臓中ニ存スル「リパーゼ」ノ作用ガ主ニカクノ如ク菌ヲ變化セシメシモノテアル。(刀根山病院 柳澤抄)

國立保險院及海員組合ノ長官、國立職員保險院ノ總裁、國立鑛山夫組合委員並ニ國立鐵道保險院ノ理事長ニ對スル問ヒ合セ

(Runderlap an die Heern Leiter der Landesversicherungsanstalten und der See-Berufsgenossenschaft (Seekasse), den Heern Präsidenten der Reichsversicherungsanstalt für Angestellk, den Heern Kommissar für die Reichsknappschaft und an den Heern Vorsitzenden des Vorstandes der Reichsbahn-Versicherungsanstalt) von 10, VIII 1938-II⁵ 2494 a/38-480.

結核撲滅ノ特別問題(Sonderthema zur Bekämpfung der Tuberkulose)之ヲ次ノ如キ Themaニ分ケテ以上表題ノ如キ諸長官ノ解答ヲ求メタルモノ也。即チ

a) 所謂結核性撒布、娘浸潤ヲ見タル場合ニ之ガ單ニ未感染肺野ニ新シイ病竈ヲ作ツタモノテアルカ。又ハ竈ノ既存或ハ治癒ニ向ヘル病竈ノ再燃ニアルカノ區別。

b) カ、ル場合ニ兩者ノ何レカラ決定スルコトハ次ノ事實ノ説明スルニ足ルモノナルカ。

1) 兩側ノ潜在性肺結核ハ、從來々ヘラレタルヨリモ多イモノナルカ。

2) 1 例ノ肺結核ヲ思ハセル場合ニ手術的治療ノ時々效果ナイ事。

c) 然ラバ理論的並ニ實際的關係ニ於テ、何ガ要求セラル可キヤ。

之ニ對シテ醫師側ノ報告トシテ Schäffer ハ各療養所各研究室ニ於テ臨牀的、「レントゲン」學的検査並ニ觀察、病理解剖的検査ノ必要ナルヲ解キ、其各ニ就キ検査事項ヲ詳述シ、其指導事項ニヨツテ各療養所テナサレタ結果ヲ總括シテ、之ヲ組織化シテ、以テ上記ノ Themaニ向ツテ検討スベキテアル事ヲ述ベ。

A. Schmicke ハ結核ノ分類及性質診斷並ニ研究所ニ送ラルベキ臓器ノ處置ニ就イテ指導事項ヲ詳述ス。

(刀根山病院 柳澤抄)

結核外専門雜誌

兒玉氏ノ肺結核血清診斷法ニ就テ

Bernhard Schmidt: Zur Serodiagnostik der Lungen tuberkulose nach Kodama (Zeitschrift für Hygiene und Infektionskrankheiten; 121 Bd., 3 Hft., 1938)

兒玉氏(Zbl. Bakt., I. Orig. 138 Bd. 1937)ハ肺結核ノ一新血清診斷法ヲ發表シ、同法ハ活動性肺結核ノ早期

診斷ノ目的ニ充分適ヒ、而モ喀痰中ノ結核菌證明ヨリヨリ確實ナ方法テアルト述ベテ居ルノテアルガ、著者ハ同法ガソレノミナラズ、操作ガ比較的簡單テアルコトヨリシテ、活動性結核ノ集團檢診ノ際ニ本法ヲ利用シタラ迅速ニ其目的ガ達セラレルノテハアルマイカトノ見地ノ下ニ兒玉氏法ヲ追試スルニ至ツタノデア

ル。

結核患者及爾他疾患ノ血清竝ニ健康者血清計 168 例ニ就テ兒玉氏法ト Witesky-Klingenstein-Kuhn 氏法トヲ同時ニ施行シ對比シテ見タノテアルガ、其ノ結果下表ノ如キ成績ヲ得タ。

	検査數	兒玉法+	Witesky 法+
開放性結核	51	41	37
非解放性要治療的結核	30	23	22
爾他疾患(非結核性)	37	5	3
健康者	50	—	—
計	168		

表ヲ判ル様ニ兒玉氏法ハ Witesky-Klingenstein-Kuhn 氏法ヨリ稍ク敏感デアツタ。併シ乍ラ一方前者ハ後者ニ比シテ、ヨリ非特異的デモアツタノテアルガ著者ノ検査例數ハ、必ズシモ未ダ多クハナイカラ兒玉氏新法ノ實際的價値判定ハ之丈ケノ實驗ニ據ツテ決定サレル譯ノモノテハナク、更ニ廣汎ナ追試ノ成績ニ俟チタイト云ツテ居ル。(九大細菌 占部薫抄)

人型竝ニ牛型結核菌ニ對スル殺菌劑ノ作用(第 4 回報告) 芳香族ノ酸類ヲ以テセル檢索

E. Hailer: Die Einwirkung keimtötender Stoffe auf Tuberkelbazillen des Typus humans und bovinus. IV Mitteilung. Versuche mit Säuren der aromatischen Reihe (Zeitschrift für Hygiene und Infektionskrankheiten: 12 Bd., 3 Hft., 1938)

芳香族ノ酸類中ニハ純培養結核菌ニ殺菌的ニ作用スルモノカ多數アルコトヲ知ツタ。夫等ノ中ニハ比較的高イ稀釋度(N/50—N/400 溶液)テ、既ニ短時間内ニ殺菌作用ヲ發揮スルモノ及ビ、更ニ甚シク高稀釋度(N/1000—N/2000 溶液)ニ於テ 2—24 時間以内ニ比較的強イ殺菌力ヲ示ス様ナモノモ見ラレタ。

短時間内ニ殺菌シ得ルモノトシテハ Monocarbonsäureニ屬スルモノニハ Phenylpropiolsäure, Phenoxylessigsäure ガアリ、Oxycarbonsäureニハ Salicylsäure 及 3 Kresotinsäuren ガアル。又 acidylierte Oxycarbonsäureニハ Butyryl- 及 Chloracetylsalicylsäure, Acetyl- 及 Chloracetyljodsalicylsäure, Acetyl-, Propionyl-, Butyryl- 及 Chloracetylkresotinsäure ガアル。更ニ強ク稀釋シテモ、猶ヨク殺菌作用ヲ發揮シ得ル酸類トシテハ、Monocarbonsäureニ屬スルモノニ、Phenylpropiolsäure ガアリ Oxycarbonsäureニハ Salicylsäure, 3 Kresotinsäuren, Chlorkresotinsäure,

Chlorthymolcarbonsäure ガアリ、又 acidynierte Oxysäureニハ Chloracetyl- 及 Acetyljodsalicylsäure, Chloracetylchlorkresotinsäure ガアル。

是等ノ酸ノ強力ナル殺菌作用ヲ治療上ニ用ヒル譯ニハ行カナイカトノ問題ガ起ツテ來ルガ Salicylsäure 及ビ Phenylpropiolsäureハ 20% Glycerin 液ヲ以テ溶液トシタ場合ニ極メテ顯著ナ殺菌力ヲ示スカラ、斯ルモノヲ以テスル療法ハ皮膚結核ニハ用ヒラレル可能性ガアルト謂ヘヤウ。

尙スル酸、「グリセリン」溶液ハ夫ガ腐蝕性ヲ有シテ居ナイ限り、「カテーテル」其他之ニ類スル器械類ノ消毒竝ニ保存ニ用ヒラレ得ル。(九大細菌 占部薫抄)

調理セラレタ家禽ニ於ケル鳥型結核菌ノ發現

William H. Feldmann: The Occurrence of Avian Tubercle Bacilli in dressed Poultry (Journal of Infectious Diseases, Vol. 63, No. 3, p. 332, 1938)

結核罹患鶏ニ於テハ結核菌ノ菌血症ガ屢ク起ルカラ、著明ナ結核病變組織ヲ除去シタトシテモ、猶且ツ關節内ヤ長管骨ノ骨髓内ニ結核病變ガ殘存シ、又結核菌ガ血流ニヨツテ播布セラレル、結果トシテ血管系統内ニ殘留シテ居ル様テアル。

コノ様ナ譯テアルカラシテ、假令食料品市場テハ結核鶏ヲ取扱ハナイト謂フコトニナツテ居ルトシタトコロテ、鳥型結核ガ饒多ニ存在スル地方ヨリノ鶏ニハ一見健康サウニ見ヘルモノニ於テモ、或ハ鳥型結核菌ヲ體內ニ藏シテ居ル様ナコトハナイダラウカト謂フコトガ問題ニナツテ來ル譯テアル。斯ル問題ニ關スル知見ヲ得タイト思ツテ著者ハ、市場ニ於テ、健康狀態良好テ、又顯微鏡的ニモ全ク結核性病變ノ認メラレナイ様ナ家禽ヨリ脾臟計 125 個(内譯: 孵化後 6—8 ヶ月ノ幼若鶏 66、牡鶏 30、家鴨 18、七面鳥 4、去勢鶏 3、鴨 4)ヲ入手シ是等ヨリ Corper & Uyei ノ法ニ準ジテ分離培養ヲ行フニ至ツタノテアル。

其結果、幼若鶏 1 例、成熟牡鶏 2 例竝ニ家鴨 1 例ヨリ計 4 株ノ抗酸性菌ヲ分離スルコトガ出來、而モ夫等ノ何レモカ動物實驗ノ結果鳥型結核菌テアルコトガ明カナツタ。

以上ノ成績ヨリシテ、1) 料理ニ供セラレル家禽ニハ假令認ム可キ病變ハ缺如シテ居テモ、尙正常毒力ヲ有スル鳥型結核菌ガ藏サレテ居ルコトガアルカモ判ラナイジ、又、2) 一見正常ニ見エル鶏ノ體內ニモ結核菌ガ存在スルコトガアルカモ知レナイト謂フコトガ

判ル。

(九大細菌 占部薫抄)

眼結核ノ全身療法

Günter Stromburg: Zur Allgemeinbehandlung der Augentuberkulose. (Klin. Monatsbl. f. Augenheilk. Bd. 100. 1938)

眼結核治療ノ問題ハ要スルニ病原體ト之ニ關與セル細胞群トノ間ニ起ル反應ヲシテ纖維素性ノ終末機轉ヲトラシメル様ニスル事デアツテ、之ニハ周到ナ局所療法ニ加フルニ全身療法ヲ併用セネバナラナイ。從來行ハレタ全身療法ニハ大體二ツノ方式ガアリ、其1ハ「ツベルクリン」及ビ金製劑ヲ用フル特殊療法デアリ、其2ハ氣候及ビ食餌療法ニ據ル非特殊療法デアル。

「ツベルクリン」注射ニ就テハ從來ニ據ル見解ガ對立シテ居ル。其一ツハ「ツベルクリン」ノ微量注射ニ依ツテ刺激ニ對スル過敏性ヲ得ントスルニアリ、他ノ1ツハ過敏性ヲ得ル事ヲ無條件ニ禁ジ、遞増注射ニヨツテ毒不感受性ノ状態ニ到達セシメントスルニアル。然シ何レニシテモ此ノ特殊療法ハ長時間ニ亙ツテ、之ヲ持續セネバナラヌトイフ事ニ於テ、兩者共其理論ハ一致スル。又症例ニヨツテ「ツベルクリン」禁忌ノ場合ノ存スル事ニ注意スベキデアツテ、從來「ツベルクリン」ノ治效問題ヲ論ズルニ當ツテ「ツベルクリン」ヲ不注意ニ使用セル症例ノ存スル事ヲ確言出來ル。

次ニ金製劑療法ニ就テハ著者ノ多年ニ亙ル經驗ニヨルト本療法ノ效果ヲ認メル事ハ出來ナイ。

自然的療法、即チ氣候療法ハ上述ノ特殊療法ニ對立スルモノデアル。

ドイツ國テハ Mittelgebirge 特ニ Hochschwarzwald ハ氣候的ニ眼結核ノ治療ニ對シテ完全ニ好適デアル。海岸地方ノ氣候ノ結核ニ對スル治療作用ハ極メテ一過性ノモノデアツテ不適當デアリ、低地帯モ亦種々ノ理由ニヨツテ不適當デアル。

生物學的ニ觀察シテモ山嶽氣候ハ「ツベルクリン」ト同様ニ人體ニ對シテ著シイ刺激ヲ與ヘル。Mittelgebirgeニ於テハ此ノ刺激ヲ任意量ニ適用シ得ルニ都合ガヨク、又多量ノ紫外線ガアル。而シテ吾人ハ此ノ紫外線ノ過度ノ照射ヲ行ハザルヤウ注意スル必要ガアリ、内科醫ト眼科醫トノ密接ナ協力ノ許ニ患者ヲシテ、漸次此ノ照射ニ馴ラシテ行クヤウスベキデアル。即チ患者ノ感受性ノ如何及ビ眼結核ノ種類(増殖型カ浸出型カ)ニヨツテ嚴密ニ適當ノ照射ヲ行ハネバナラナイ。斯ル點ヲ顧慮セザレバ時ニ不慮ノ結果ヲ招ク事ガアル。

以上ノ如キ Freiluftkur 及ビ Sonnenlichtkur ヲ行フト共ニ一定ノ肉體運動ニヨツテ健全ナ食欲ヲツケル事が必要デアル。

是等ノ治療法ノ他ニ尙ホ重要ナ事ハ食餌ノ規定デアル。一般ノ結核療法、特ニ皮膚、骨、腺結核ノ食餌療法(Hermannsdörfer 氏)ヲ眼結核ニ於テモ應用スル事ガ出來ル。然シ之ニ就テノ決定的ナ批判ハマダ出來ナイ。唯此ノ際必要ナコトハ一方的ナ菜食テハナク種々ノ養素ヲ混ジタ Kochsalzarme gemischte Kost ヲ與ヘル事デアル。

(菅沼定男)

「スクロフローゼ」ニ就テ

W. Keller: Zum Skrofuloseproblem (Klin. Monatsbl. Bd. 100. S. 161 1938)

現今ノ一般的ナ概念ニ從ヘバ「スクロフローゼ」トハ體質的基礎ニ基イテ變化シタ小兒結核ノ特別ナ出現型式ニ他ナラナイト云フ事ガ出來ル。即チ「スクロフローゼ」トハ淋巴性浸出性體質ヲ持ツタ小兒ノ結核感染ニヨツテ現ハレルモノデアルトイフ事ガ出來ル。從ツテ吾人が「スクロフローゼ」ナル診斷ヲ下ス爲ニハ所要ノ臨牀症狀ノ他ニ結核感染ノ證明ヲ必要トスルノデアル。

「スクロフローゼ」ナル診斷ヲ下ス爲ノ臨牀症狀ハ多數ニ存シ、夫等ノ症狀ノ中テ「フリュクテン」ハ最モ屢々見ラレル症狀デアルガ、「フリュクテン」ガ單獨ニ現ハレタ場合ニ直チニ之ヲ以テ「スクロフローゼ」、又ハ結核ナリト斷ズル事ハ出來ナイ。

著者ハ本論文ニ於テ「スクロフローゼ」ニ關スル種々ノ學說ヲ紹介シ、最後ニ「スクロフローゼ」ノ診斷上第一ニ必要ナノハ「ツベルクリン」反應、次テ肺ノX線寫眞デアルトシ、此ノ際斯ル被結核感染小兒ノ特殊療法或ハ非特殊療法ヲ行フニ當ツテハ特別ノ注意ヲ拂フ必要ノアル旨ヲ述ベテ居ル。

(菅沼定男)

結核ノ傳播經路

Lommel: Ausbreitungswege der Tuberkulose (Klin. Monatsbl. f. Augenh. Bd. 100. 1938)

著者ハ、先ツ結核感染ニ關スルラジケノ所說ヲ紹介シ更ニ結核免疫或ハ「アレルギー」ノ問題ニ就テ、諸學者ノ意見ヲ引用シテ結核ノ體內ニ於ケル蔓延ニ就テ、綜說的説明ヲ行ツテ居ル。

(菅沼定男)

外傳染性結膜結核ノ一例ニ就テ

Marga Schmierer: Über ektogene Bindehauttuberkulose an Hand eines Falles. (Klin. Monatsbl. f. A.

Bd. 100. 1938)

結膜ノ結核特ニ外傳染性結膜結核ハ甚ダ稀ナ疾患デアツテ、一部ノ學者ハ臨牀的或ハ動物實驗の根據ニ基キ結膜結核ノ外傳染性成立ノ有無ニ就テ論争シテ居ル。著者ハ結核ニ罹患セル家畜ノ世話ヲナセル一婦人ニ生ジタ外傳染性結膜結核ノ 1 例ヲ經驗シ、之ニ就テ報告シテ居ル。即チ右眼上眼瞼ハ強ク腫脹シ疼痛ハナイガ、上眼結膜ハ全ク硬固ナ肉芽組織ニ變化シ、其表面ハ各所ニ於テ膠様トナリ灰白色ノ被膜ヲ覆ハレ、潰瘍形成ハ認メラレズ。右側ノ耳前腺及ビ顎下腺ハ著シク腫脹シ、此ノ部ニ於テ切開創ヨリ膿汁排出が見ラレタ。結膜ノ組織學的檢索ノ結果之ガ結核性肉芽性病變ヲ呈セル事及ビ組織中一結核菌ノ存在セル事ヲ證明シ、更ニ該組織切片ノ家兔前房内ヘノ移植試験ヲ行ヒ、是等ノ結果ヨリ本結膜病變ガ結核ナル事ヲ確證シタ。而シテ本症例ニ於テ患眼ト同側ノ耳前腺、顎下腺 (regionäre Lymphdrüse) ノ著明ナ腫脹が見ラレ、他ノ部位ニハ全然結核性變化ノ認メラレナカツタ事及ビ結膜ノ病變ガ其ノ穹窿部即チ異物ノ侵入ノ易ク、且ツ最モヨク傷害サレ易イ部位ニ現ヘラタ事ニヨリ著者ハ本症ヲ以テ明カニ結膜ヘノ直接ノ外傳染性結核デアルトシテ居ル。(菅沼定男)

球結膜ノ結核

Jenö Schmidt: Die Tuberkulose der bulbären Bindehaut. (Arch. f. Ophth. Bd. 138, 1938)

險結膜或ハ球結膜ノ結核ガ直接外傳染性ニ成立シ得ルカ否カニ就テハ種々ノ論議ガアリ、殊ニ球結膜ニ於テハ結核性病變ガ角膜輪部ニ近接シテ存スル場合ハ之ヲ内因性ト考ヘ、該病變ガ角膜輪部ヨリ比較的離レテ存スル時ニハ之ヲ外傳染性結核ト考フベキダトスル説ガアルガ、著者ハ斯ル説ニ反對シ、球結膜結核ハ其所在ノ如何ニ拘ラズ内因性 endogen ノモノデアリ、險結膜結核テ其ノ regionäre Lymphdrüse ノ腫脹ヲ來スモノハ直接外傳染 ektogen ニ依ツテ發生スルモノダト主張シテ居ル。

結膜結核ノ中其ノ最モ稀ナ型式ハ結核腫ニアルガ、著者ハ此ノ 1 例ヲ經驗シ、之ニ就テ報告シテ居ル。患者ハ 36 歳ノ婦人ヲ右眼ノ鼻側角膜輪部ニ接シテ球結膜上ニ約 1.5 mm 隆起セル小腫瘍ガアリ、充血ハナク、鞏膜トモ癒著シテ居ラナイ。此ノ隆起物ノ組織學的檢索ニヨレバ結核菌ハ證明サレナカツタガ、明カニ結核性肉芽性組織デアツテ、該隆起物ハ即チ險裂斑中ニ生ジ

タ結核腫デアル事ヲ著者ハ確認シタ。而シテ從來スル結核腫ハ潰瘍ヲ形成セナイト考ヘラレテ居ルガ、之ハ誤デアツテ、著者ノ症例ニ於テハ細胞浸潤ハ將ニ上皮ヲ穿破セントシテキタ、故ニ本例ニ於ケル如キ結核腫ト雖モ、早晚潰瘍ヲ形成スルニ至ルデアラウト著者ハ主張シテ居ル。(菅沼定男)

眼結核ノ治療問題

Hermann Davids: Zur Frage der Behandlung der Tuberculose des Auges. (Zeitschrift. f. A. Bd. 94. 1938)

Wegner ハ眼結核ノ治療ニ特殊療法特ニ「ツベルクリン」注射ヲ行フ事ハ有害デアルトシ、食餌療法竝ニ高山療法ヲ併用スルノガ最モ有效デアルト稱シ、Werdenberg ハ高山療法ノ價值ヲ強調スルト共ニ「ツベルクリン」ニヨル特殊療法ニモ多少ノ治療價值ヲ認メテ居ル。著者ハ 30 年以上ニ亙ル眼結核ノ治療經驗ニ基キ「ツベルクリン」ノ治療價值ヲ大ニ強調スルト共ニ高山療法ヲ以テ眼結核治療ノ唯一ノ方法ナリトスル Wegner 等ノ所説ニ反對シテ居ル。而シテ著者ハ「ツベルクリン」、「レントゲン」線、高山氣候療法等ハ各ソレゾレノ意義ト治療價值トヲ有スルモノデアルカラ、各症例ニ應ジテ之ヲ適用スルト共ニ、又且合ニヨツテハ此ノ三者ヲ併用スベキデアルトシ、著者ノ實驗例ニヨツテ各治療法ノ長短ニ就テ述ベテ居ル。著者ノ眼結核治療方針ハ勿論症例ニヨツテ一様デハナイガ、大體ニ於テ先ヅ「ツベルクリン」ヲ使用シ、次テ「レントゲン」線照射、更ニ食餌療法ヲ行ヒ、又身體ノ自然的防禦力ヲ高メル爲ニ「オムナジン」注射ヲ行ヒ、斯クシテ治療ガ奏效スレバ後療法トシテ轉地療養ヲ行ハシメルトイフデアツテ、著者ハ眼結核ノ治療上「ツベルクリン」ニ絶大ノ信賴ヲ置イテ居ル。

(菅沼定男)

眼結核ノ問題

Alan C. Woods: The problem of ocular tuberculosis (Amer. Journ. of Ophth. No. 4. 1938)

眼結核ノ診斷ハ其ノ經過、性状、他ノ病因的要素ノ除外、患者ノ全身の結核症狀ノ研究等ニ基カネバナラナイ。「ツベルクリン」反應ハソレガ強陽性ノ時ダケ價值ガアル。反應ノ弱イ時及ビ陰性ノ時ニハ眼結核診斷上ノ價值ハナイ。

眼結核治療ノ目標ハ「アレルギー」ヲ廢除シ、免疫ヲ増進セシメル事デアル。「ツベルクリン」ハ長期間ニ亙ツテ使用シ、過敏性ヲ無クスル事ニヨツテ其ノ效果ハ最大トナル。然シ又「ツベルクリン」禁忌ノ場合ノ存スル事ヲ忘レテハナラナイ。(菅沼定男)